

実践型避難訓練「救助袋」

本日の1校時に避難訓練を実施しました。今回は「救助袋」。階段がすべて使用不能になり4階に取り残されたという想定で行いました。3階までに生活する2・3年生はそのまま校庭避難。

時間の関係で1年生数名が実際に救助袋を体験しました。(本当は全員が体験できると・・・)

取り残された1年生は「誰から避難するのか?」を教室で考える時間を取りました。また、2・3年生も校庭に避難後に「現在1年生は誰から避難するかを考えています。」との説明があり、実際に自分自身が4階に取り残された際の避難順を考える時間がありました。

避難の順番には「正解はない」と思います。

怪我をしている人などを優先して・・・でもその前に怪我人を介護する人を先に・・・

その場の状況で判断することになるということを知っておく必要があります。



救助袋は避難の際に、窓又はバルコニーなどから地上へ使用者が袋の中を滑り降りることによって避難するものです。入口金具、袋本体、緩衝装置、取手及び下部支持装置(斜降式に限る)などから構成されます。救助袋には、垂直に展開された袋の中を滑り降りる「垂直降下式救助袋」と、概ね45度の角度で傾斜を持たせて展開した袋の中を滑り降りる「斜降式救助袋」があります。

本校には3・4階に「垂直降下式救助袋」3台と、3階に「斜降式救助袋」1台が設置されています。

これは避難器具の基準(昭和53年度消防庁告示第1号)により定められているものです。

本日は、4階の1年C組に設置されている「垂直降下式救助袋」を使用しました。内部が「らせん状」になっており、徐々に降下する仕組みになっています。



